教育関連記事

エデュサン edu sun

5

2025 / No.116

運動会より（ニューヨーク日本人学校）

発行／ DAILYSUN NEW YORK LLC　1270 Avenue of the Americas, 7th Floor, New York, NY 10020
TEL：646-327-6443　WEB：www.dailysunny.com　E-MAIL：info@dailysunny.com

エデュサン
edu sun INDEX

1. 教育レポート

◆大盛り上がり！合同運動会　NY 育英学園インターナショナルスクール

◆ダブルダッチチーム、NJ 州大会で二冠、国際大会出場　NY 育英学園

◆稲田博士・特別講話「エイズの歴史、半世紀」 NJ 補習授業校

◆ジャパンパレードに初参加、100 人で大行進　NY 育英学園

◆「おはなし会」で日本語を楽しみながら学んだよ　NY 補習授業校 W 校

◆ 50 周年の節目に全力疾走、運動会を開催　NY 日本人学校

2. NY 教育関連ニュース

◆ NY 州「全米一教育の質が高い州」 北東部の 3 州がトップに

◆ハーバード大やプリンストン大に入学した子どもの保護者が決してしない 4 つのこと

◆高給取りになれない大学の学部は？　最も収入が少ないのは外国語専攻

◆膨大な着信と内容に保護者うんざり　学校の WhatsApp グループ

◆「もうアメリカには来るな」 ベテラン教師の投稿が波紋呼ぶ

エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

大盛り上がり！合同運動会

NY 育英学園インターナショナルスクール　2025.05.28

ニューヨーク育英インターナショナルスクール小学部と、育英サタデースクール・ニュージャージー校の小・中学部は 10 日、合同大運動会をニュージャージー州イングルウッドのウィントン・ホワイト・スタジアムで開催した。赤・白２組に分かれた約 180 人の児童・生徒が参加。来場した保護者を含めると総勢 400 人以上が集まり、大盛況となった。

全校生徒による入場行進の後、ラジオ体操で開会。観客席に集まった保護者も音楽に合わせて体を動かし、爽やかな 1 日の始まりとなった。運動会は全校生徒が参加する徒競走からスタート。続いて毎回白熱した展開となるリレーなどの団体種目や、綱引きや玉入れなどの日本の運動会の伝統的種目が行われた。二人三脚や綱引きなどの保護者参加の種目では、子どもたちから奮闘する大人たちにひときわ大きな声援が送られ、会場は温かい一体感に包まれた。最後の得点発表では僅差で赤組が優勝。勝った赤組も、惜しくも敗れた白組も、「また来年も頑張ろう！」と笑顔で運動会を締めくくった。

運動会を終えて子どもたちからは、「1 年生のときと比べて、速く走れるようになったと思う」「大玉転がしでは高学年のお兄さんお姉さんと協力して次の走者に渡せたから、とてもやりがいがあった」などの感想が聞かれた。また、応援団として運動会を支えた 6 年生からは、「応援団の練習を 3 週間頑張った。本番はみんな笑顔でやりきることができてとてもうれしかった」と、最上級生としての自覚と達成感が滲んだ感想も聞かれた。保護者からは「日本から遠く離れた地でこれほど大規模な日本式の運動会を体験できるのは、ニューヨーク育英学園ならでは」と感謝の言葉が寄せられた。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園インターナショナルスクール）

「正々堂々と戦うことを誓います」

4 人 1 組でムカデ競争。タイミングを合わせるのってむずいな～

ダブルダッチチーム、NJ 州大会で二冠、国際大会出場

NY 育英学園

2025.05.29

ニュージャージー州ニューアークのボーイズ & ガールズ・クラブ・オブ・ニューアークで 4 日、「2025 年ニュージャージー・ダブルダッチ州大会」が開催され、ニューヨーク育英学園（ニュージャージー州イングルウッドクリフス、岡本徹学園長）の 8 年生チーム「NINJA」が優勝、7 年生チーム「SAMURAI」が準優勝を果たした。両チームは 6 月 12 日から 3 日間、サウスカロライナ州サムターで開かれる「World Invitational Championship」にニュージャージー代表として出場する。

大会は、2 本のロープを交互に回しながら演技を行う規定演技（ルーティン）、2 分間の跳躍回数を競うスピード、1 分間でどれだけの技を入れられるかなど難度と表現力を競うフリースタイルの計 3 種目の合計得点で順位が決まる。NINJA は難しいアクロバットを安定したロープワークの中でこなし、SAMURAI はミスの少ない演技で練習通りに力を発揮した。

NINJA の石川大夢さんは「より点数を伸ばせるように、まだまだ工夫する点がある」と、SAMURAI の南あおいさんは「ノーミスを目指していたが少しミスをしてしまった。悔しいが次の大会までに調整したい」と 6 月の桧舞台を前に抱負を語った。監督の笠間将平教諭は、「技術だけでなく、チームワークと礼儀を大切にしている。全米本選でも“育英スタイル”を貫きたい。悔いなく演技できれば結果はついてくる。子どもたちを信じて最後まで支える」と、さらなる飛躍を誓った。

ニューヨーク育英学園では幼児部からダブルダッチをクラブ活動に取り入れ、リズム感や協調性を育むプログラムを実施。世界大会で優勝経験をもつ笠間教諭が指導し、同学園は各大会で必ず上位に入るアメリカ屈指の強豪として知られている。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園）

緊張しながらウォーミングアップ

馬跳びで縄の中に入るジャンパー

稲田博士・特別講話「エイズの歴史、半世紀」

NJ 補習授業校　2025.05.29

ニュージャージー補習授業校（ニュージャージー州パラマス、小田切利幸校長）高等部は 4 月 12 日、NPO 法人イルファー（ILFA ＝ RInada-Lange Foundation for AIDS Research）代表の稲田頼太郎博士を迎え、特別講話「エイズの歴史、半世紀」を開催した。イルファーはケニアで 25 年以上にわたり、HIV/AIDS 医療のモデル構築と地域医療の最前線で活動を続けている。

稲田博士は、1980 年から HIV/AIDS の治療および基礎研究を開始。90 年代には医師として働く傍ら同校で教鞭を取っていたこともあり、今回の講話は帰国中の貴重な合間を縫って実現した。講話は高等部国語科の授業に組み込まれ、生徒たちは事前に稲田博士の歩みを学び、講話後にはディスカッションも行った。

稲田博士は、予防法が周知され治療法が確立し治療薬が入手しやすい日本やアメリカなどの先進国では、HIV や AIDS についてニュースで語られる機会が減っているが、ケニアなどの開発途上国では今も深刻な問題であると説明。「患者の命を救うだけでなく、現地の医療者を育てることが持続的な解決への道」と強調した。

生徒からは「LGBTQ については知っていたが、HIV についてはほとんど知らなかった。自分の無知に気づかされた」「ケニアの現実を知って、日本での生活がいかに恵まれているかを実感した」「人の命を直接救える医師という職業に改めて感動し、自分の命をどう使うのか、自分の進路について考えるきっかけになった」など、熱が入った感想が寄せられた。

将来は世界を舞台に活躍したいと願う生徒たち。貧困に苦しむケニアで HIV 医療に尽力する稲田博士の“生きざま”にふれ、「どう生きるか」という本質的な問いに向き合う貴重な機会となったようだ。生徒の感想を録画した動画は、ケニアに戻った稲田博士にも送られた。（情報・写真提供：ニュージャージー補習授業校）

ナイロビのスラム地区で
活動する稲田博士

熱心に講話を聴く高等部の生徒たち

ジャパンパレードに初参加、100 人で大行進

NY 育英学園

2025.05.29

ニューヨーク育英学園（ニュージャージー州、イングルウッドクリフス、岡本徹園長）は 10 日、第 4 回ジャパンパレードに参加した。同パレードに学園として参加するのは今回が初めて。約 100 人の子どもたちと保護者は、沿道に詰めかけた見物客から拍手や声援を受け、堂々と行進した。

ニューヨーク育英学園はパレードの最後から２番目に登場。浴衣や甚平、学園特製の法被を身にまとい、“日本らしさ”を表現した。小さな未就園児たちも全行程 12 ブロックを最後まで歩き切った。行進中にフロートカーに目を向けると、そこにはなんと昨年の秋、ニューヨーク・ブロードウェイで上演された漫画原作のミュージカル「進撃の巨人」の出演者たちが。子どもたちとの記念写真に気さくに応じてくれ、ミュージカルを観た子どもたちは、感動していた。

レッドカーペットでは、ポートワシントン校ダンス部員が、圧巻のパフォーマンスを披露。演技後には、観客席から惜しみない拍手が送られた。部員たちは「緊張したが、全力で踊れた」と笑顔が弾けた。

ジャパンパレードは、剣道や和太鼓、よさこい、盆踊りなどの日本の伝統文化からアニメやコスプレなどのサブカルチャーまで、多様な日本文化に触れられ、アメリカにいながら日本を堪能できるイベント。年々、規模を拡大し、今年は６万人もの見物客でにぎわった。ニューヨーク育英学園は来年度のパレードにも参加する予定。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園）

沿道に向かって手を振る子どもたち

パレード前にみんなで集合写真

「おはなし会」で日本語を楽しみながら学んだよ

NY 補習授業校 W 校

2025.05.30

ニューヨーク補習授業校 W 校（小島昇校長）は 3 日、ボランティアグループの「NY 児童文化の会」を招き「おはなし会」を実施した。初等部の 4 年生が参加した。

この日は絵本「じごくのそうべえ」の読み聞かせからスタート。読み聞かせボランティアの巧みな関西弁と上方落語を基にした話に、子どもたちはぐいぐい引き込まれていったようで、終始笑顔で話に聴き入っていた。手遊びでリラックスした後は、科学絵本「ぼく、だんごむし」の読み聞かせ。ダンゴムシの生態について学び、昆虫に関するクイズにも挑戦した。クイズが大好きな子どもたちは、元気よく手を挙げて解答、教室は明るい声に包まれた。最後の演目となった人形劇「3 びきのやぎのがらがらどん」では、アドリブも含めた話の展開に「大きいヤギは、あいさつをしないの？」「トロルがばらばらだぁ」などとつぶやきながら聴き入っていた。　趣向を凝らしたプログラムが盛りだくさんの会はあっという間に終了。ボランティアからは「補習校の子どもたちは、元気があって反応も良い」とうれしい感想が寄せられた。

NY 児童文化の会による「おはなし会」は毎年、春と秋の 2 回実施している。ボランティアメンバーの表現技量の高さや工夫されたプログラムのおかげで、正しい日本語に楽しみながらふれられる貴重な機会となっている。ニューヨーク補習授業校 W 校での「おはなし会」は 3 週にわたって開催、初等部 3 年生以下と幼児部の子どもたちも参加した。学年に応じて、大型絵本や紙芝居、パネルシアター、言葉遊びなども実施した。（情報・写真提供：ニューヨーク補習授業校 W 校）

人形劇「3 びきのやぎのがらがらどん」では、恐ろしいトロルが登場

絵本「じごくのそうべえ」の読み聞かせに聴き入る子どもたち

50 周年の節目に全力疾走、運動会を開催

NY 日本人学校　2025.05.30

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッチ、森本恵作校長）は 24 日、49 回目となる運動会を開催した。

節目となる創立 50 周年を迎えた今年、スローガンは「仲間と走る、この瞬間が最高のドラマ～ One for All, All for One ～」。赤組・白組それぞれの団長・副団長が、「GJS50 周年の歴史を胸に、全力を尽くすことを誓います」と力強く選手宣誓し、開会した。

恒例の応援合戦では、応援団が中心となり伝統と創意を融合させたエール交換や拍子打ちを披露、児童生徒の力強い声が会場に響き渡った。短距離走では、一人一人が全力でトラックを駆け抜けた。団体種目では、学年の枠を超え一つのチームとして結束し、見応えのある勝負を繰り広げた。

最大の見所である表現演技では、1、2、3 年生が「唄おう！ 50 周年の青い夏！」と題した可愛らしいダンスを踊った。4、5、6 年生は「50th Anniversary GJS ソーラン 舞」として、力強い掛け声とダイナミックな動きで観客を魅了した。7、8、9 年生は「50 年の伝統と団結の力」をテーマに、指揮者の合図に従い、統制の取れた動きで隊列を変え行進し、最後にはダンスパフォーマンスで演技を締めくくった。

閉会式では生徒会長が「この運動会を通じて培った力や仲間との絆をこれからも大切にして、それぞれの目標に向かって前向きに進んでいってほしいと願っています」と熱いエールを贈った。児童生徒、教職員が心を一つにし、学校の合言葉「SMILE と HAPPY」があふれた運動会となった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）

選手宣誓。やる気がみなぎっています

「50th Anniversary GJS ソーラン 舞」を披露する 4、 5、6 年生

エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS

写真はイメージ（photo: Unsplash / Element5 Digital）

NY 州「全米一教育の質が高い州」

北東部の 3 州がトップに

2025.05.15

オンライン教育機関シリコンバレー・ハイスクールが実施した最新の調査で、ニューヨーク州が「全米で最も教育の質が高い州」に選ばれた。タイムアウトが 6 日、伝えた。

同調査では、50 州のデータを分析し、卒業率、テストの成績、生徒 1 人当たりの教育予算、1 クラスの生徒数、学校の安全性など 8 つの要素を評価した。ニューヨーク州は、生徒 1 人当たりの教育予算が全米トップの 3 万 3437 ドルで、生徒対教師の比率が 11.7 対 1 である点が考慮され、教育の質スコア 80.66 点を獲得した。

2 位はマサチューセッツ州（80.33 点）、3 位はニュージャージー州（76.56 点）で、上位 3 位を北東部の州が占めた。マサチューセッツ州は、大学進学適性試験 SAT と ACT の成績が全米首位。ニュージャージー州は、安全性スコアと幼児教育の就学率でトップだった。一方、最下位はアリゾナ州で、教育の質スコアは 24.44 点。卒業率は約 77% と悪くないが、教師 1 人に対する生徒数が 22.8 人と過密状態にあり、生徒 1 人当たりの教育予算はニューヨーク州の 3 分の 1 未満だった。

上位の州には「1 クラスが少人数」「生徒 1 人当たりの教育予算の高さ」「強固な安全管理体制」などの共通点が見られた一方、ネバダ、ニューメキシコ、アイダホ州など下位州では、「学級の肥大化」「大学進学率の低さ」「不安定な安全性」が課題となっている。

photo: アメリカ屈指の名門校、プリンストン大学（photo: Unsplash /Pauline Lu）

ハーバードやプリンストン大入学した子ども
保護者が決してしない４つのこと

2025.05.19

高校生を対象とした起業家コーチングプログラム「スパイク・ラブ（Spike Lab）」の課外コーチとして過去10年間、数百人の生徒や保護者と関わってきた男性が「名門大に入学した子どもの保護者が決してしない4つのこと」を15日付のCNBCで紹介している。

① 特定の大学への入学を、幸せで生産的な人生の唯一の選択肢と考えない。

特定の大学の入学に固執せず、自分の強みに集中させる。どこへ行っても成功するために必要な「自主性」、「計画力」、「批判的思考力」、「創造力」、「コミュニケーション能力」を育む手助けをする。

② 他の子がやっているからと、自分の子どもにも強要しない。

競争心や取り残される不安から、無理に他の子と同じことをさせない。自己認識の育成が必要。興味があること、時間を費やしたい事柄について、保護者が導き模範を示す。

③ 子どもの“戦い”の代わりを保護者がしない。

子どもの代わりに難しい任務を引き受けたり、問題を解決したりしない。ときには困難な状況が、自己主張の方法を学ぶ機会になる。保護者の介入は、その育成を妨げる可能性があり、「誰かが代わりにやってくれる」と考えるようになると、自分ですることを学ばなくなる。

④ 子どもを失敗や拒絶から守らない。

拒絶は再び立ち上がる自信を与え、自己認識の再構築の手助け、現実への準備にもなる。挑戦を諦めさせるのではなく、失望から立ち直る方法を教える。

写真はイメージ（photo: Unsplash / Joshua Hoehne）

高給取りになれない大学の学部は？

最も収入が少ないのは外国語専攻

2025.05.21

ニューヨーク連邦準備銀行の最近のデータによると、大学時代に「教育」「社会福祉」「芸術」を専攻していた卒業生は、入社 5 年以内の年間収入の中央値が最も低いグループに属することが分かった。Fortune が 19 日、伝えた。

大卒の若手のうち、収入が最も低かったのは外国語専攻の卒業生で、年間収入の中央値は 4 万ドルだった。就職に有利なイメージのある外国語専攻だが、公共サービスや翻訳などの低給与の職に就く傾向があるという。次いで、一般社会科学専攻が 4 万 1000 ドル、パフォーミングアーツ専攻が 4 万 1190 ドルでこれに続いた。人類学と幼児教育、生活科学、一般教育、広範囲にわたる生物化学、社会福祉、神学と宗教の卒業生は、それぞれ 4 万 2000 ドルで、5 位に並んだ。

これらの専攻卒が中堅職位に昇進しても、技術系専攻の同年代と比べ給与は低いままだ。中堅社員の収入中央値は、幼児教育が 4 万 9000 ドルと最も低く、小学校教育（5 万 3000 ドル）、社会福祉（5 万 4000 ドル）、一般教育（5 万 5000 ドル）、特別支援教育（5 万 5000 ドル）、中等教育（5 万 8000 ドル）、神学と宗教（6 万ドル）、広範囲にわたる教育（6 万ドル）、生活科学（6 万 2000 ドル）、保健サービス（6 万 5000 ドル）などが “ 稼げない ” 専攻だ。

一方、工学やコンピュータサイエンスなどの STEM 分野を専攻した学生は、高い給与を得ている。

写真はイメージ（photo: Unsplash / lonely blue）

膨大な着信と内容に保護者うんざり

学校の WhatsApp グループ

2025.05.29

ニューヨークの学校に通う生徒の保護者たちは、膨大な情報であふれ、ときには噂話が飛び交う WhatsApp を使ったグループチャットにうんざりしている。ゴッサミストが 20 日、伝えた。

多くの学校でパンデミックの間、クラスのチェーンメールに代わり WhatsApp のグループチャットが保護者同士の連絡ツールとして利用されるようになった。WhatsApp のグループは学校と正式には関係なく、1 クラス単位から学年全体まで規模は多岐にわたる。中には約 1500 人の新入生と 350 人以上の保護者が参加する巨大なグループもある。運動会の日程調整や教師への贈り物の寄付集め、卒業式の段取りの確認など、保護者同士が学校の日常的な事柄に関する情報を共有するフォーラムとして利用するなら有益だが、実際には、テストの成績、生徒同士の問題、教師に関する噂、ときには学校とは無関係な話題が延々と続くこともある。

シラミが発生した学級の生徒の保護者は、保護者グループによる “ 子どもをシラミから守る方法 ” についての談義に巻き込まれ、2 時間連続で数十回の着信音が鳴り続けた。1 日 100 件を超えるメッセージが投稿されるグループもあるという。保護者が最もストレスを感じるのは、メッセージの量とその内容だ。ほとんどの保護者は、学校や教師からのメール、学校ポータルからの通知で、既に手いっぱいだと嘆く。

写真はイメージ（photo: Unsplash / RUT MIIT）

「もうアメリカには来るな」

ベテラン教師の投稿が波紋呼ぶ

2025.05.30

ハーバード大学やコロンビア大学などのエリート校を含む大学への資金援助が大幅に削減される中、留学生の教育環境は劇的な変化を遂げている。アメリカで長く教えてきた教師が投稿サイトの Reddit に、海外からの留学生に向けて、「もうこの国に来るな」と警告し、波紋を呼んでいる。ファイナンシャルエクスプレスが 26 日、伝えた。

投稿には「私は世界中からやって来る学生たちに教えることを愛してきたが、もはやアメリカは彼らにとって安全で現実的な選択肢ではない。ハーバード大学の状況や大規模な研究費削減は、ほんの始まりに過ぎない。この政権が発足してからまだ 4 カ月しか経っていないが、私はアメリカ生まれの白人であるにもかかわらず、既に恐怖を感じている。私はこの国を離れるつもりだ」とある。

それに対しあるユーザーは直面する課題の深刻さを認め、「留学生を不安定な状況に追い込むようなことが、本当に多く起きている」と投稿。一方で、「現在の政権は移民政策と抗議活動に関する規制を強化しているが、アメリカは依然として世界有数の大学やイノベーションの拠点を受け入れている。一部の報道は懸念すべきものだが、それらは全ての留学生の経験を代表するものではない。『アメリカに来るな』と、特に特権的な立場から発言することは、安全や機会、学問の自由を求める人々の希望を軽視する行為だ」と反論する声もある。

また、歴史的な視点から皮肉る投稿も見られた。「アフリカ系アメリカ人が建国以来、システム的な暴力と差別を生き延びてきたのだから、これぐらいのことは耐えられるだろう。白人が大げさに言うな。これはわれわれにとって新しいことではない」。 別のユーザーは忍耐を促し、「恐怖を煽るのはやめよう。何の役にも立たない。自分たちのため、そして人類全体のために闘い続けなければならない。この国をまだ諦めないで」と投稿。ある留学生は次のように投稿している。「ありがとう。でも私は自分の運に任せる。たった 2 年間の修士課程だ。気付けば終わっているさ」

supported by

edu sun